

雑多の光

自然の豊かな場所でものづくりをして、周りの人が誘われ、一緒にものづくりする。
地域の一つの憩いの場、学習の場、生きがいとなる存在。
関わる人々は発想に満ち溢れ、知恵のある暮らしを過ごすことができる。



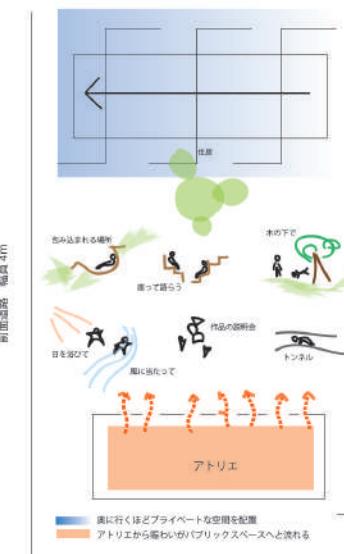
■配置・平面計画

都市の喧騒から離れて、豊かな自然に囲まれたロケーションに静かに佇む空間に、大きく3つの空間を計画する。1つ目は景観を取り込み、プライベートを確保した住居空間。2つ目は働く場所となるアトリエ。視覚的に大きく開くことで光や風、景観を取り込み、さらに、活動を外部に見せることができる。3つ目は、居住空間（1つ目）とアトリエ（2つ目）に接続された、ひとつながりの「ブリックスペース」。二つの建物が街に隙間をつくり出し、断面的に「ブリックスペース」とつながることで、街とひとつになる。

<住居>

西に隣地の住居、東にアトリエ、ブリックスペースが広がり、北に前面道路がある。このため、プライバシーが求められる住居は、東西を閉鎖しつつ、前面道路のある北側から、南に向かって、奥に行くほどプライベートな空間を展開していく。玄関には簡易的に洗面台を設置し、アトリエから作業を終え帰宅した時、手や顔を洗うことができる。

敷地面積	1050 m ²	建蔽率	26.81%
建築面積（住居部分）	139.12 m ²	容積率	33.82%
建築面積（アトリエ）	142.43 m ²		
延床面積	284.87 m ²		
延床面積（住居部分）	142.43 m ²		
延床面積（アトリエ）	142.43 m ²		



■プログラム

家具のクリエイターを生業とした夫婦は、日々家具の製作をする。作品は、アトリエの外の次の接点となる棚の役割をした壁面に飾る。飾られた買い物手は作品を閲覧しながら逛ぶ。買い物手との取引、作品の製作を主な活動とし、併せてDIYスクールの機能を持たせた。ここは町の住民、子供、情報を受け訪れた観光客の創作の場である。クリエイターである夫婦が講師となって本格的な機器を用いて創作し、これによって住民や子供たちは、日常から知りたい暮らしを学ぶことができる。また、ワークショップを開き地域単位での創作活動を行うことができる。

■インターフェースの「棚」

前面道路、からでも見ることができるアトリエの外壁は、作品を飾ることができる。さらに、格子状であるため、人・光・風・緑線・声、これらを通すことができ、日常的なコミュニケーションが生まれる。

■「ブリックスペース」

二つの建物を繋ぐことで生まれたスペースが、その両側の建屋を関係づける媒体とした。隣接を活用し、居場所や展示スペースとした場所。「空間の抵張」、「両側の空間の重ね合わせ」、「いずれの側にも属さない空間」を設ける。

■「空間の抵張」：展示スペース

植栽を段階とし、アトリエの「棚」に飾られた作品を鑑賞できる道とする。何気なく目にに入った作品が気に入り、購入することができる。

B「両側の空間の重ね合わせ」：居場所

クリエイターや来訪者が、「アイデアを模索する」、「コミュニケーション」、「くつろぐ」、「自然と触れ合う」といった、様々なアクティビティを持った居場所。

C「いずれの側にも属さない空間」：居場所

下から窓の外の「ブリックスペース」へと繋がるアトリエの「棚」を基としない建物の「あき」。下からの緑線が通らない。

